

「ものづくり」の技術を地域へ 地元企業で次の100年を支える

「もともと、ものづくりが好きで、ものをつくる楽しさに好きだったんです。そう話すのは、地元の100年企業である株式会社大館製作所で環境グループ部長を務める笹島旬さん。子どもの頃はミニ四駆やプラモデルを作ることが

に、環境設備機械から一般産業機械まで、長年培ったノウハウと一貫した生産体制で幅広いニーズに答えている。鉄道信号部門では、東北唯一の鉄道省（国鉄、JR等の前身）の指定工場として大正11年から歩みを重ねてきた。信号保安用品メーカーは国内に数社しかなく、長年の技術の蓄積による製品を全国のJRグループへ納入している。環境に関わる各種信号保安用品の設計・製作・販売や、水環境に、傾斜ベルトコンベヤーや、水処理機械設備のチェンフライント式汚泥掻き機などを製作。設計から製作、組立、検査までを経て、全国の自治体へ納入している。鉄道の安全と水環境の安心を支える技術は、大館から全国へと広がっている。

北鹿地域は積雪が多く、冬には雪かきから仕事が始まる。次世代へ受け継いでいくための環境づくりにも取り組んでいる。地域に根を張りながら、全国の鉄道や水環境を支える技術を未来へつないでいくことが、同社の新たな挑戦となっている。「私も含め従業員一丸となって、さらなる100年を築けるように進んでいきたい」と力強く語ってくれた。

大館製作所 環境グループ部長
笹島 旬さん

現在の仕事で特に生かされているのがCAD・CAM実習という。CAD（製図ツール）をメインに扱う仕事なので、学生の時に学んだCADソフトの操作方法や図面を描く上で必要な知識やルールを前に、製品がどのように



大館製作所前で撮影に応じる環境グループ部長笹島旬さん



2025年、新工場完成。次の100年へ

子どもの頃の「好き」が、学びにつながり、仕事になり、地域を支える技術になっている。笹島さんの歩みは、地元で働くことの一つの可能性を示しているのではない

(秋田職能短大 生産機械技術科卒)

東北能開大秋田校 生産機械技術科 高橋 憂

2026 東北能開大秋田校 鷹巣技術専門校
北鹿で活躍する修了生たち
～若者はなぜ地元で働く道を選んだのか～ 9